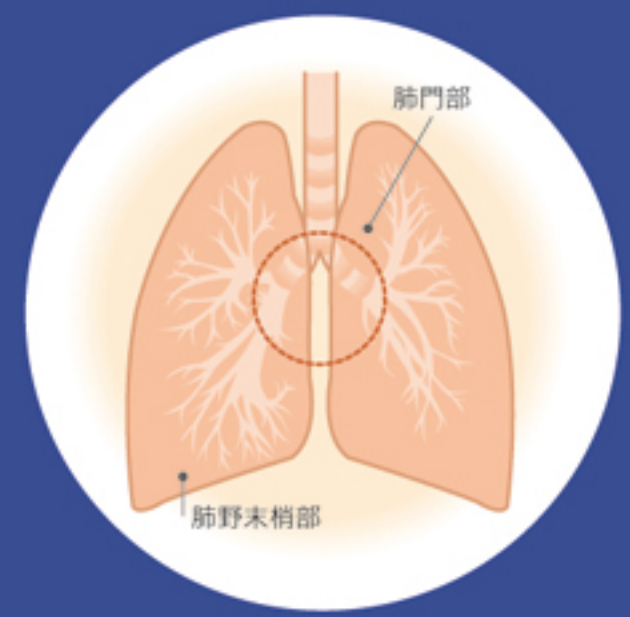


肺がん 検診



肺がんの最大の原因はタバコです！
ただし、喫煙しない人にも、肺がんは発生します！

40歳以上の方は、年1回検診を受けましょう！

一次検診 (スクリーニング検査)

問診

既往歴、喫煙歴などについて、おたずねします。

胸部X線撮影

主に肺野末梢部にできるがんを見つけます。

喀痰細胞診

X線撮影で見つけにくい肺門部肺がんでは、早期でも痰の中にがん細胞がこぼれ落ちてくることが多いので、喀痰の細胞診が早期発見の唯一の方法です。

二次検診 (精密検査)

気管支鏡検査

胸部X線撮影や喀痰細胞診で、異常が見つかった時に行います。気管支鏡を鼻または口から挿入して気管支の中を観察し、組織や細胞を採取して調べます。

経皮的肺穿刺法

気管支鏡では届きにくい、肺の末梢部位の病巣に、細い針を刺し、細胞を採取します。

胸部ヘリカルCT

肺の断層をミリ単位の厚みで撮影します。病変部の大きさ、形、内部構造などを正確に調べることができます。

こんな症状にご注意

なかなか治りにくい咳や痰、血痰、また風邪症状が続くなどが肺門部肺がんの初期症状です。ただし、肺野末梢部の肺がんの場合、初期では症状の出ないことが多いです。

症状がない今だからこそ、
肺がん検診を受けましょう！



肺がん検診 Q & A

Q 自覚症状もなく、タバコも吸っていないので、肺がん検診は受けなくてもいいですか？

A 肺がんの中でも肺野末梢部にできるがんは喫煙者以外の人にも発生することがあります。自覚症状がなくとも40歳以上の人は定期的に検診を受けることが大切です。

Q 人間ドックで1日のうちに胃X線撮影と胸部X線撮影を予定していますが、X線被曝による発がんが心配です…。

A 微量のX線といえども発がんのリスクがあると考えられています。しかし、そのリスクは極めて小さいもので、成人の人はむしろ、X線撮影による病気の診断という利益のほうがずっと大きいのです。

喫煙と肺がん

喫煙は吸っている本人の肺がんのリスクを高めるだけでなく、タバコの先から立ち上る煙を吸い込むことで、喫煙者の周囲の人にも肺がんのリスクが高くなります。肺がんのみならず、喫煙は喉頭がんや食道がんをはじめ、多くのがんや心筋梗塞、脳卒中の発生危険因子です。今すぐ、禁煙することが大切です。